

技術支援ネットワーク構築による文化遺産の危機管理への取り組み： ユネスコチェア国際研修事業

立命館大学 歴史都市防災研究所

文化遺産と危機管理に関するユネスコチェア事業は、文化遺産の災害危機管理を対象とした教育・研究・ネットワークの国際的なハブとして2006年に開始された。その中で、文化遺産の災害危機管理に関する国際研修コース(ITC)を毎年実施している。コースは、国内外の専門家による講義、現地視察、演習、討論で構成されており、各国の社会的・経済的・制度的背景に応じた解決策を提案する能力の獲得を目指す。大学での各国の災害危機管理に関する学術研究とITC実施を通じて構築された国際的な専門家ネットワークを生かし、文化遺産における災害危機管理計画および統合的危機管理システムの構築を促進している。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

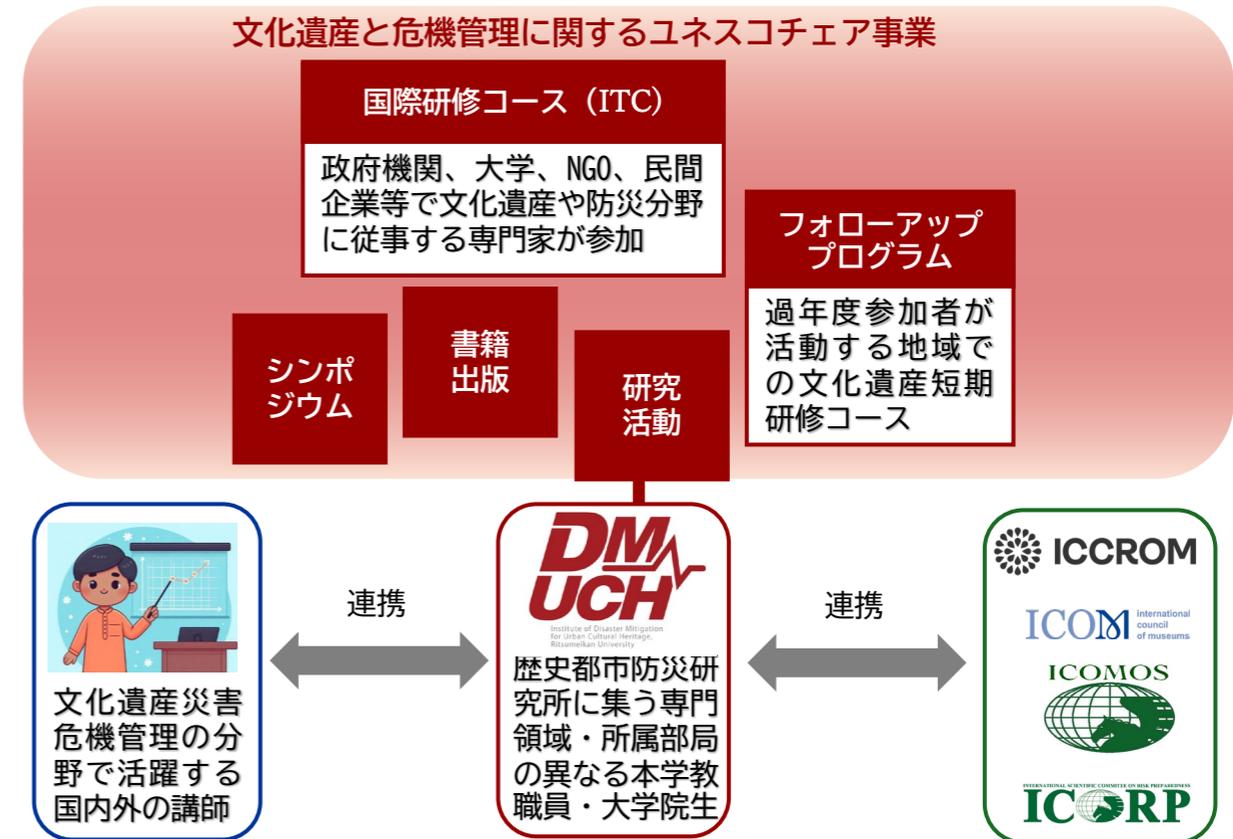
専門家育成と技術支援ネットワークの構築を通じて、文化遺産の持続可能な保護に向けた国際的取り組みを促進する。多様な文化遺産に対し、地震や津波、テロ等に対する脆弱性軽減のための統合的リスク管理システムを構築し、災害に強い社会を実現する。

「矩」を超えた場づくり/参画しているステークホルダー

立命館大学歴史都市防災研究所、ユネスコ、イクロム、国内外の大学・政府機関・NGO・企業、文化遺産および防災の専門家、ITC研修参加者、学内の多様な教職員・大学院生が参加している。

総合知人材の育成方法/育成方法の工夫

講義、ワークショップ、討議などへの参加と研修生自身が関与する文化遺産の防災管理計画の作成を通して、社会的・経済的・制度的背景に応じた解決策を提案する能力を向上させる。国際的な専門家ネットワークを生かし、文化遺産における災害危機管理計画および統合的危機管理システムの構築を促進している。



技術支援ネットワーク構築による文化遺産の危機管理への取り組み：ユネスコチェア国際研修事業

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

- 専門家育成と技術支援ネットワークの構築を通じた、文化遺産の持続可能な保護に向けた国際的な取り組みの促進

- 有形・無形を含む多様な文化遺産を対象に、地震、津波、洪水、台風、地滑り、森林火災等だけでなく、放火、破壊行為、テロ、紛争、バイオハザードなど様々な災害に対する脆弱性軽減のための統合的リスク管理システムを構築し、災害に強い社会を実現

生み出された総合知 / 得られた新たな価値

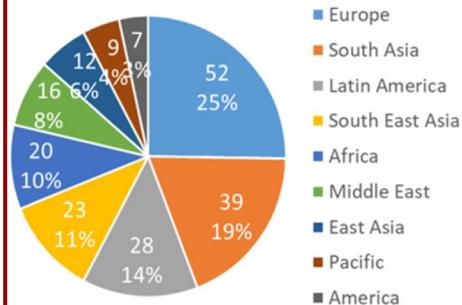
- 国際的ネットワークを構築し、文化遺産の防災管理に関する知識と技術を共有するとともに、各地域の社会的、経済的、制度的背景を考慮した防災管理計画の策定プロセスを確立

- 建築、歴史、社会科学、防災工学などの学際的なアプローチによる、包括的な災害対策を体系化

国際的評価の高い学際的で実践的な国際研修コース

- インタラクティブな講義、視察、ワークショップ、討議
- 参加者自身が関与する特定の文化遺産に関する防災管理計画案の作成（社会的・経済的、制度的背景に応じた解決策を提案する能力）

応募者総数2,172名、うち79か国から206名の研修生が参加



政府機関、大学、NGO、民間企業等で文化遺産や防災分野に従事する専門家が参加

文化遺産災害危機管理の分野で活躍する国内外の講師

派遣機関（2024年度）
文化庁、東京文化財研究所、国立文化財機構、京都国立博物館、京都府教育庁、神戸市文化スポーツ局、佐用町教育委員会、京都市消防局、先斗町町並み保存会、京都大学防災研究所、宮城大学、UNESCO-EPRU、カトマンズ渓谷保全トラスト（KVPT）、エジプト文化遺産救済財団、ジョージタウン世界遺産管理機構

UNESCO、ICCROM、ICOM、ICOMOS /ICORP など国際機関との連携

DMU CH

歴史都市防災研究所に集う専門領域・所属部署の異なる本学教職員・大学院生

シンポジウム、書籍出版、研究活動



フォローアッププログラム

サイトマネージャー研修、地震後の文化遺産保全と復興のための専門家研修、SPAFA・ICCROM共催の専門家研修など

これまでの実施国：
インド、ミャンマー、ネパール、ブルネイ、タイ

